

令和6年度 岡山県立矢掛高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和7年2月18日(火) 14:10～16:55
場所 矢掛高等学校 会議室
司会 田中宏和
記録 吉岡雄志
欠席 なし

【会 長】

檜崎 裕志 地域住民・学識経験者
(元中学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長)

【副会長】

藤原 立志 地域住民・学識経験者 (元小学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長)

【委 員】

入野 晶彦 地域住民 (山陽新聞社)
奥村 美恵 地域住民 (矢掛高等学校高校コーディネーター)
小野 秀明 学識経験者 (矢掛中学校校長)
金子 晴彦 地域住民 (前矢掛町観光交流推進機構理事長)
小寺 康弘 保護者 (矢掛高等学校PTA会長)
妹尾 一正 地域住民 (矢掛町役場矢掛高等学校支援特任参事)
堀 伸二 地域住民 (備中西商工会副会長、矢掛町観光交流推進機構理事長)
宮本 浩治 学識経験者 (岡山大学大学院教育学研究科教授)
高月 秀人 矢掛高等学校 校長

【事務局】

田中 宏和 矢掛高等学校 教頭
瀬尾 洋司 矢掛高等学校 事務長→代理出席：物部克佳 総括副参事
吉岡 雄志 矢掛高等学校 主幹教諭、ESD課長
植田 雄介 矢掛高等学校 教務課長
松川 大記 矢掛高等学校 生徒課長
藤島 順子 矢掛高等学校 進路課長

【次 第】

1 開会

- ①会長挨拶【檜崎会長】
- ②校長挨拶【校長】

2 説明・協議

- ①令和6年度学校自己評価アンケート集計結果について【主幹教諭】
- ②令和6年度学校自己評価(最終)の説明【各課長】
- ③質疑・応答【校長・教頭・主幹教諭・各課長】

～休憩～

- ④教育活動の進捗状況と今後の課題について【校長・教頭・主幹教諭】
「高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業」について
矢掛高校魅力化の現状
授業改善
- ⑤質疑・応答【校長・教頭・主幹教諭・各課長】
- ⑥その他

3 連絡

来年度の学校運営協議会について

4 閉会

副会長挨拶【藤原副会長】

【議事録】

1 開会

①会長挨拶【檜崎会長】

檜崎

来年度の準備や進路指導の忙しい中、集まってくれて感謝する。
矢掛高校のためになる具体的な議論をお願いしたい。なお、2名の傍聴を認めている。

②校長挨拶【校長】

校長

今年度は臨時を含めて4回目の協議会である。多くの元気と支援をいただき、学校運営に役立っている。新春の首長インタビューで山岡町長が浅口市長と対談した新聞記事を用意した。その中で山岡町長が矢掛高校の魅力化を推進したいと述べておられ、実際にそれらが実現されている。例えば矢掛駅の副駅名が「矢掛高校前」となり、先日、駅看板の除幕式が行われた。矢掛高校はもともと矢掛駅に近く、立地条件が良い。列車の中では駅だけでなく、「広報やかげ」の裏表紙にある「矢高生の成長は矢掛町の魅力化に繋がっています。」というコメントまでアナウンスしてくれている。このことで、生徒たちが地域に愛されているという実感を持つとともに、その他の利用者も矢掛町と矢掛高校は互いに連携して力強く前に進んでいると感じてもらえると思う。
また中国銀行の私募債を通じて地元4企業が矢掛高校石垣等保全事業に寄付をしてくれた。本校の石垣と白壁は地域にとっても重要な財産である。引き続きこの事業も進めていきたい。
矢掛中学校との合同部活動は生徒の立場に立ったときに、部員数が増え、活動場所が広がり、部によっては外部指導員からの指導も受けられるという利点が多い。課題もあるが引き続き推進していきたい。本日は厳しい意見も述べていただき、本校の運営の一翼を担ってほしい。

2 説明・協議

①令和6年度学校自己評価アンケート集計結果について【主幹教諭】

吉岡

学校生活の満足度を図る⑩の質問を重視しており、90%以上の肯定的意見を目指して教育活動を進めている。

全体的には生徒、保護者、教職員いずれも肯定的意見が80%を超えており、悪くはないが、もう少し上げていきたい。

3年生の生徒と保護者の肯定的意見が80%を割っている。これはアンケートを12月にとるが、その頃は進路実現に向けて一番の山場であり、苦しんでいるときなので、それが反映されたと思う。

2年生の保護者は高めの評価をしてくれている。

探究コースの生徒は学年が上がるにつれて満足度が下がっている。これは現実の厳しさを知るようになったことが原因と考えられる。

地域ビジネス科は1、3年生の満足度が高くなっている。これはコース別集会や検定合格に向けての補習など学科全体で努力する体制がうまく機能していると考えられる。

⑥の矢高祭に関する項目の肯定的意見が低くなっている。これは校外で実施する予定であったが、生徒から校内でやりたいという強い要望を受けて校内での実施に変更したことが影響していると思われる。学校自己評価アンケートの中で肯定的意見が70%を切る項目が令和4年度は26項目、令和5年度は8項目、令和6年度は5項目となっており、全体としては改善の傾向がみられる。

気づきがあれば教えてほしい。

檜崎

地域ビジネス科の2年生と3年生の肯定的意見の傾向が対照的に感じられる。どのような手立てを行ったのか。

吉岡

地域ビジネス科2年生は1年生のときに人間関係のトラブルが複数回あり、このときから肯定的意見は低かった。一方、3年生は1年生のときから肯定的意見は高かった。それが年次進行した格好になっている。

檜崎

地域ビジネス科2年生が進級する際に何か手を打ったか。

吉岡
授業改善を行った。また商業科教諭が指導教諭になった。

檜崎
現在も肯定的意見は低いが、3年生になったときに上がってほしい。

金子
全体的に上がってきているが、過去5年程度のものがさかのぼれるような資料が欲しい。

吉岡
資料はないが、過去を見ると上がり下がりがある。

金子
矢掛町は幸福度が高い町であるとの調査結果が報道されていた。おそらく感覚的なものであるが、それが実は正確であって、指標としては大切だと思う。

入野
過去からの推移は気になる。過去5年分ほどの推移をビジュアル化してもいいのではないかな。
3年生の保護者の満足度が低いのはなぜか。

吉岡
生徒の満足度とともに保護者の満足度も低下するのではなく、保護者に生徒を応援してもらえるような体制を作りたい。
⑩の項目が一番実態を表している。どうやって上げていくかが今後の課題である。

檜崎
自由記述の212の意見と213の意見が対照的である。

②令和6年度学校自己評価（最終）の説明【各課長】

植田
少人数クラス編成による個々の生徒への丁寧な教育の実践について。
指導教諭を中心に矢掛中学校の授業参観を行い、授業づくりの参考にした。
学校全体で授業改善に取り組み、総合教育センターから講師を招いて研修会を行うことができた。
地域との連携推進による生徒の人間関係形成力伸長の実践について。
人間関係形成力伸長のために各部署が様々な行事を計画したが、うまく調整して円滑に実施できた。

松川
少人数クラス編成による個々の生徒への丁寧な教育の実践について。
生徒が前向きに行事に向き合う姿が見られた。少しずつ改善を行っている。
家族間・生徒間・SNS上でのトラブルがあった。今後も警察とも連携して改善していく。
現在、内規の見直しを行っている。
地域との連携推進による生徒の人間関係形成力伸長の実践について。
全体としては協力的な生徒だが、周囲に流されやすく、そのときの気分に振り回される生徒が一定数いる。
服装なども注意をしながら、教員にも挨拶を励行して元気よく学校生活が行われるようにしていく。

藤島
少人数クラス編成による個々の生徒への丁寧な教育の実践について。
進路に対する意識を高めるために年6回の面談を行ったり、スタサブを活用したりした。
しかし、生徒によっては目標の決定が遅れた場面があった。
地域との連携推進による生徒の人間関係形成力伸長の実践について。
学年集会などで指導したことで、進路に関する指導の場面では身だしなみを整えることができたが、普段の生活では整えられない生徒もいた。
やかげ学やボランティア活動は進路指導の役に立った。校外の活動をもっと学校でも活かせるようにしていきたい。

吉岡

フォーラムと様々な活動で生徒が成長した。

しかし自分の価値観だけで自分を評価して、指導を受け入れられない生徒が見られた。

これは幼いころから多様な価値観に触れていないことが要因として考えられる。

校外での活動を行うことで多様な価値観を育ててほしい。

③質疑・応答【校長・教頭・主幹教諭・各課長】

藤原

進路先を決められずに準備が遅くなったなど、自分なりの目標設定ができにくい生徒の一番大きな課題は何か。

藤島

自信のない生徒が多く、判断できない。ライバルが少ない環境で生活しているため、受験の感覚が育ちにくい。もっと早く努力が始められるよう指導したい。

小野

校則の見直しの進捗状況を教えてほしい。本校の生徒も気にしている。

松川

今年度、見直しを進めており、来年度からの実施となる。今年度末に生徒に流していく。

来年度実施しながら問題点をあぶりだしていきたい。

檜崎

評価 A がついているのは ESD 課のみである。1 年団の評価 C について、ソーシャルスキルを養うのは専門家でないと行えないのか。

全体的に具体的な取り組みを明記する必要がある。

吉岡

評価 B は基準をクリアしている評価である。評価 A は大きく基準をクリアしているときの評価である。

したがって B で問題ない。ソーシャルスキル等については専門家から指導を受けて、生徒も教員もスキルアップを目指したい。

田中

今年度、スクールカウンセラーからラポールについて研修を行った。

宮本

目指す授業理念を「共有」することか「実施」することが目的か。

授業の中でよい発問をするのは当然のことではないか。

田中

昨年度末で授業理念を共有し、今年度は実施した。

宮本

実際に行えなければならない。共有できただけでは、評価 C ではないか。文言の修正が必要ではないか。

良い発問を行う必要性を共有しただけではなく、良い発問とは具体的に何なのかを書いていかないと組織的な改善にならない。

入野

校則について、何をどのように変えたか。

松川

頭髪やソックスなどの規定について、自由度を上げていく方向にした。

入野

校則の内容を生徒全体で考える機会があってもよいのではないか。

松川

今年はできていない。

入野

以前生徒会が学校運営協議会で校則について問いかけたが、十分煮詰められていなかったもので、取り上げられなかったことがあったと聞いている。校則は社会に出る前に守るべきものだと思うが、全員で考えることでなぜこのような校則があるのかという気づきにつながると思う。

妹尾

変えたことがあれば、この場で共有したい。進捗もわかる。

小寺

校則から大きく外れる生徒はいるか。

吉岡

守らない生徒はいる。粘り強く話をしている。

校則を守っている生徒が損をしているように見えるのが残念である。

宮本

進路課の評価は具体的でよい。英語検定合格の機運が高まっているのは良い兆候である。

教員のアンケート項目は軒並みマイナスである。

吉岡

各教員が自分の思いを表現している結果である。主幹教諭としてそれぞれの教員の思いをしっかりと聞いて、学校運営に活かしたい。

宮本

それぞれの教員が思っている課題意識を掘り起こさなければならない。学校自己評価に書かなくても、教員全員で課題を共有する必要がある。

休憩 15:10～15:20

④教育活動の進捗状況と今後の課題について【校長・教頭・主幹教諭】

○「高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業」について

吉岡

コーディネーターを配置している高校は多いが、他校はどのようにコーディネーターを使うかを考えている。一方、矢掛高校はコーディネーターを使って矢掛高校にしかできない活動をどのように創っていくかを研究テーマにしており、岡山県の中ではトップを走っている。

また本事業では矢掛高校のコーディネーターが他のコーディネーターの力量を上げていくことも目的の1つになっている。

コーディネーターがいるからこそできていることは、フォーラムへの参加、コンテストに向けての指導、トークフォークダンス、作品展など多岐にわたっている。

また今年度はNPO 法人だっぴの森分さんにもコーディネーターに入ってもらっている。森分さんには総合的な探究の時間のカリキュラムの監修、提案、改善、また発表会の準備指導などをお願いしている。

この事業は来年度もあるので矢掛高校にしかできない活動を創出していきたい。

4ページに示した教育時報の表紙には矢掛町と矢掛高校の包括協定の調印式の様子が掲載されている。包括協定が結べたのもコーディネーターがいたからこそである。

檜崎

コーディネーターが教職員と対話した回数とあるが、対話とはどのようなものか。

コーディネーター配置の狙い等について共通認識した回数とはどのような場面か。

他のコーディネーターと交流や情報交換した回数とあるが、県内にコーディネーターは沢山いるのか。

吉岡

単なる日常会話なら限らない。ここではフォーラムの指導や総合的な探究の時間のことについて相談した回数をあげている。

共通認識した回数とは職員会議での校長からの話や行事など通じて共通認識した場面である。

県内のコーディネーターは沢山いるが、1週間のうちに数時間しかいないコーディネーターもいれば、奥村さんのように常駐しているコーディネーターもいる。

入野

矢掛高校でしか経験できない学びについて、前向きな生徒だけでなく、高校全体に広げていくことが次の課題である。

普段接することがない集団の中で経験をしてほしい。

吉岡

そこに課題意識を持っている。同じ生徒が何回もボランティアなどに参加している。友人を連れて参加してくれたらいいと思っている。場合によっては担任に推薦してもらっている。

ただ高校生は他にも部活動などがあり、忙しい。そういった活動も大切にしてやりたい。

先進的な取り組みをしている地域があるか。

入野

学校運営協議会の案内で「地域連携や探究学習の先進校、先進地域について教えてほしい」とあった。文部科学省のホームページに先進的な取り組みをしている地域の資料があった。参考にしてほしい。

やかげ学のアップデートが必要である。実習だけではもったいない。

藤原

やかげ学の経験を活かして学校事務職員になったり、井原鉄道に就職したりして社会で活躍している卒業生が沢山いることが成果である。

吉岡

来年度は2年生から始まるやかげ学の最初に企業のOB、OG訪問ができればと考えている。

檜崎

奥村さんから何かあるか。

奥村

常勤でいられるのは大きな強みである。今後はもっとコーディネーターの専門性を高めていきたい。

卒業生を追いかけることを計画している。そのためのネットワークが欲しい。

宮本

コーディネーターが関わっている探究活動が授業に活かせないといけない。やかげ学を中心としたカリキュラムが回っていけばよい。行事で感じたことが授業で活かせるように、そして進路に活かせるようにしてほしい。

例えば、大名行列に外国の方を呼んで交流すると、英語の必要性や経済的なことをわかっていき、授業への意欲もあがる仕組みをカリキュラムとして作る必要がある。

堀

大名行列には多くの外国人が参加している。高校生にも運営委員会に参加してもらうなど新しいかわり方を考えたい。

○矢掛高校魅力化の現状

校長

1 何をどう活用して生徒をどう育てるか

やかげ学に臨む覚悟を持たせたい。生徒のどの力をどの程度育てていくのかを実習先と共有してどのように進んでいくのかを共有したい。

やかげ学の毎年の取り組みをアーカイブ化して積み上げをしていかなければならない。

地域おこし協力隊制度を活用して、やかげ学担当を1名追加したい。3月3日に矢掛町長と一緒に面談をする。

地域ビジネス科教員の人数にも限界があるが、商品開発については、他校の取り組みを見るところから始める必要がある。

総合的な探究の時間を通じて、生徒をどのような大人に育てたいのかを明確にする。

2 矢掛町としてどのような人を育てていくのかという理念の形成

矢中矢高合同部活動は生徒目線で考えると、部員数が増え、活動場所が広がり、指導員がつくという魅力がある。

高梁市の福原参与と横山コーディネーターの取り組みは参考になる。

3 地域（矢掛町）・県と連携した教育環境の充実

「矢高生の成長は矢掛町の魅力化に繋がっています」という確固たる根拠を積み上げていく必要がある。矢掛町との包括協定、大名行列実行委員会との連携協定、バトゥムダ高校との姉妹校縁組を使って生徒をどのように育てていくのかを考える必要がある。

石垣保全事業は中国銀行の私募債を通じて地元の4企業から寄付をいただいた。その後も寄付活動が継続している。

また矢掛駅の副駅名が「矢掛高校前」となり、その駅看板の除幕式が行われた。

4 広報活動の在り方について

どんなにいい活動をしていても可視化していかなければ宝の持ち腐れになる。

妹尾課長の協力を得て、色々な角度から広報している。

おかげで、県外からの出願者も現れるようになった。これが拡大していけばよい。そして矢掛町の協力を得て、寮が作られたらいいと思っている。

小野

矢中矢高合同部活動はまちづくりそのものであり、SDGsの11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」に該当する。

やりたい活動を求めて人が町から出ていくのではなく、やかげスポーツクラブがあることで外から人が入ってくるようになればよい。

外部指導員の面接を行った。文科省は土日の部活動の地域移行を進めているが、この取り組みは平日の指導もできるのが強みである。中学生にとって、選べる部活動の数が増えることが魅力である。高校生や高校の先生、役場の職員が中学生の指導に当たる体制ができている。多くの課題はある。その中でも最大の課題は教員である。大反対の教員もいる。問題点を一つ一つクリアしていきたい。

堀

長年考えている課題がある。生徒の考えを取り入れたい。

「来てください」と言うだけで来てもらえないのは、まちづくり、店づくりと同じ。楽しいまちには必ず人は来る。矢掛高校の教育内容が魅力的になれば生徒は集まる。

妹尾

「広報やかげ」2月号に石垣保全事業の寄付贈呈式やYAKOボラの記事を掲載した。

石垣保全事業の寄付贈呈式は「経済リポート」という雑誌の取材も受けた。

毎日新聞には矢掛駅副駅名看板除幕式の記事が掲載された。

このように矢掛高校の取り組みはできるだけ広報しようと思っている。

井原高校の「進路実績速報」はインパクトがあると感じた。

石垣保存事業の寄付の状況はどうなっているか。

物部

中国銀行の私募債で寄付を募っていただき、「ふるさと岡山“学び舎”環境整備事業」を通じてご寄付いただいた。

また寄付の意思を示してくれているのが1社と16名で合計25万円ほどになった。

目標額は340万円だが、それまでに順次整備していく。

現在校門付近を中心に石垣や白壁の整備を進めている。

妹尾

そのときにはぜひ広報を頼む。情報があれば更なる寄付につながる。

物部

ご寄付いただいた方への報告も兼ねて広報する。

檜崎

友人から寄付の意向を聴いている。申込用紙に代筆して寄付している。

妹尾

寄付金控除の対象になる。

校長
寄付のやり方を広報誌に掲載してもらうことも検討する。

妹尾
FAX が一番手っ取り早い。

妹尾
中学校でも行っているが、高校が目指す商品開発の姿を知りたい。岡山南高校では良い形になっているように見える。

田中
地域ビジネス科長から回答をもらっている。中学校では、商品開発の知識や販売についての知識が得られている。高校では、課題を自分で発見するところから始めさせたい。マーケティングは1年生で授業がある。計画立案やアイデアの考案などについて外部講師からレクチャーを受けている。ソフトウェア活用の授業を通じて分析している。

○授業改善

田中
OJT 研修を通じて授業改善を行っていたが、もっと授業を改善していかないといけないという課題意識を持っていた。授業がよくなっていけば生徒の学力も向上し人間関係作りの課題も改善できる。そのために矢掛高校はどのような授業を目指していくのかを共有していった。また総合教育センターから講師を招聘して校内研修も行った。学校自己評価アンケートではもっと肯定的意見が増えることを見越していたが、大幅な上昇は見られなかった。3年生の評定平均は少し下がったが、GTZ は上向いている。進路実績としても岡山大学や大阪大学への合格している。2月中に1年間を振り返って授業はどうだったか、振り返りの方法の妥当性を含めて検証を行うことにしている。授業について語る場面や研究する場面が見られた。来年度以降も継続していく。

妹尾
私学のパンフレットでも進学実績が大きく取り上げられている。どこに行くかがイメージできるとよい。進路実績は3年以上さかのぼって事実をもっと出していきたい。

宮本
教務課の自己評価は C ではないか。教務の仕事ではなく、管理職の仕事となっている。教務と一緒にやった仕事なのか。

田中
令和5年度の中央研修での宿題から派生した仕事である。

宮本
教務課や指導教諭とどのように関わって、授業がどのように変わったのかがわかる記述にしていく必要がある。進路の実現に向けて授業が整っていないといけない。進路課と教務課の連携が必要である。楽しい学校の基本は授業づくりである。何が課題かわかる記述になっていない。

田中
これから指導教諭や教務課、進路課が主導権を握って進めていくことが必要である。

入野
立川高校に行った目的は何か。

吉岡
進学校の探究活動の様子を知りたかった。

入野
やかげ学や探究学習は稚拙に感じる。
鎌倉女学院は鎌倉学をやっていて、自分たちで課題を見つけている。
やかげ学発表会は取材したが記事にしていない。
ボランティア、探究学習、やかげ学がごちゃ混ぜになっている。

自分で探究課題を見つけさせて研究したらいいのではないか。
やかげ学の形骸化を克服できるのではないか。
文科省のホームページを資料として持ってきた。確認してほしい。

⑤ 質疑・応答

金子

アンケートの長い間の蓄積を評価していく必要がある。深みのある材料がある。
少しずつ向上しているのはなぜか考えてみる必要がある。

妹尾

防災のカリキュラムについてはどうなっているか。宮城県の大賀城高校は防災科がある。

田中

あとで個人的に。

⑥ その他

なし

3 連絡

○来年度の学校運営協議会について

田中

今の委員の皆様基本的に来年度も継続してもらいたい。
人事異動等で都合が悪くなった場合は教えてほしい。

4 閉会

副会長挨拶

藤原

子どもたちに来てもらうから、子どもたちが行きたい学校を目指すことにシフトした。

矢掛町の文化や歴史を守るために学校が必要である。

進路課から今の子どもたちは自分の進路を決められないという課題が提示された。矢掛高校は進学校として、先生方は生徒に寄り添ってくれている。やかげ学の経験や資格取得の経験が就職に活かした例がある。

子どもたちが高校1年生に入学したときに、ゼミナールの土曜日の放課後にレクチャー的なことを行ってもらいたい。30代、40代で社会の第一線で働いている方に来ていただいて話をしてもらうことも大切である。